

MIS036-P152

会場:コンベンションホール

時間:5月27日 14:15-16:15

東日本大震災による茨城県の被害状況

The damage caused by the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake in Ibaraki Prefecture

元木 理寿^{1*}, 石塚 耕治¹

Masatoshi Motoki^{1*}, Koji Ishizuka¹

¹ 常磐大学

¹Tokiwa University

気象庁では、「3月11日14時46分頃に三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、宮城県栗原市で震度7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県で震度6強など広い範囲で強い揺れを観測した。また、太平洋沿岸を中心に高い津波を観測し、特に東北地方から関東地方の太平洋沿岸では大きな被害があった」と報じた。

この巨大地震は、津波・液状化そして原子力発電所の事故など東日本を中心にわが国に甚大な被害をもたらした。特に、東北三県は大きな被害に見舞われ、大きく報道された。メディアでの報道は多くなかったが茨城県も同様の被害を被った。これらによる災害は、これからの生活を考える上で、多くの教訓を残すものと思われる。

本研究では、東日本大震災は茨城県に何をもちたか、をテーマに 何が・何処で起こったか、市町村の被害に関する情報を収集整理し概括的に全体像を明らかにする。この全体像を基に特定の市町村を対象に踏査等により被害実態を詳細に分析しその原因を明らかにする。これらを基に今後の基盤整備やまちづくりのあり方を検討する。

そこでまず、今回はこの震災により茨城県ではどのような被害が生じたのか、その全体像を概括的に明らかにし報告する。

Keywords: off the pacific coast of tohoku earthquake, Ibaraki Prefecture, damage, tsunami, earthquake disaster